(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5176167号
(P5176167)
(45)発行日　平成25年4月3日(2013.4.3)　(24)登録日　平成25年1月18日(2013.1.18)

(51)Int.Cl.　F I
B43K 29/00 (2006.01)　B43K 29/00 N

請求項の数 2　(全 4 頁)

(21)出願番号　特願2008-211843(P2008-211843)
(22)出願日　平成20年8月20日(2008.8.20)
(65)公開番号　特開2010-46861(P2010-46861A)
(43)公開日　平成22年3月4日(2010.3.4)
審査請求日　平成23年8月4日(2011.8.4)

特許権者において、権利譲渡・実施許諾の用意がある。

(73)特許権者　391050640
冨塚　薫
京都府京都市伏見区向島二ノ丸町１５１番地の３０　３－Ａ棟９１６号
(72)発明者　冨塚　薫
京都府京都市伏見区向島二の丸町１５１番地の３０　３－Ａ棟　９１６号

審査官　砂川　充

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ハート装飾体がゆれる筆記具

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
筆記するためのペン先１を有するペン軸２と、ペン軸２の頭部３に設けられたハート型装飾体４とからなる筆記具において、前記装飾体４は可撓性を有する短冊状の薄板をハート型に形成して、このハート型装飾体４の外突起部６をペン軸の頭部３に接続し、ハート型装飾体４の内突起部７に錘５を設けたことを特徴とする筆記具。
【請求項２】
錘５が、鈴である請求項１の筆記具。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、筆記具に関し特に装飾ビジュアルデザインを施した筆記具である。
【背景技術】
【０００２】
従来は筆記具の頭部に実用品またはキヤラクターグッズのミッキーマウス（登録商標）や、キティーが固定されていた。
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
筆記具で文字や絵を描く際に、ペン軸の頭部に設けられたハート型の装飾が変化に富ん

だゆれ方をすることによって、文字や絵を描くことが楽しくなると同時に、見ている人の心も楽しませることができる筆記具を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００４】

本発明のハート型装飾体がゆれる筆記具は、筆記するためのペン先１を有するペン軸２と、ペン軸２の頭部３に設けられたハート型装飾体４とからなる筆記具において、前記装飾体４は可撓性を有する短冊状の薄板をハート型に形成して、このハート型装飾体４の外突起部６をペン軸の頭部３に接続し、ハート型装飾体４の内突起部７に錘５を設けたことを特徴とする

【発明の効果】

【０００５】

筆記具で文字や絵を描く際は、ペン先より少し上の人差し指と中指とに挟まれた部分が力点となり、人指し指の第三関節に接する部分が支点となるため、ペン軸２の頭部３は常にペン先の動きと反対の方向に動き、動きの大きさは支点からペン先１までの距離と支点から頭部までの距離との比によって決まる。このため、ペン先１の動きに連動してペン軸２の頭部３に設けられたハート型装飾体４を有効に動かすためには、実験の結果としてペン軸の長さを１５センチメートル以上にすることが必要である。

【０００６】

また、ハート型装飾体４のゆれるときの固有振動数は、ハート型を形成する短冊の弾性とハート型装飾体の質量によって決まり、仮に錘がなければ固有振動数が高いため、文字や絵を描くときのペン先の動きに共振する現象は起きないが、ハート型装飾体４の中心に近い内突起部７に錘５を付けることによって固有振動数が低くなるため、ペン先１の小刻みな動きに対しては共振することなく小刻みに振動するだけであるが、ペン先１のゆったりした動きに対しては共振が発生してハート型装飾体４全体が大きくゆれる。　したがって、文字や絵を描く際しては、ハート型装飾体４が小さく小刻みにゆれたり、ゆったりと大きくゆれたりして、変化に富んだ面白い動きを見せてくれる。文字や絵を描くと、ペン軸頭部３に設けられたハート型装飾体が小刻みにゆれたり、ゆったりと大きくゆれたりして、変化に富んだ面白い動きをみせるので、ペン先をもっと動かしたい衝動に駆られて文字や絵や描くことが楽しくなる。また、横で見ている人も不思議な楽しい気分を味わうことが出来る、なお錘５を、鈴にすることで視覚と聴覚を楽しむことが出来る。

【実施例１】

【０００７】

筆記するためのペン先１を有するペン軸２と、ペン軸２の頭部３に設けられたハート装飾体４とでなる筆記具において、前記筆記具は弾性を有するペン軸２の頭部３に柔らかいプラスチックで薄板０．２ミリの短冊を１センチメートル幅でハート型に形成し、可撓性を有するハート型装飾体４の外突起部６をペン軸２の頭部３に接続し、ハート型の内突起部７に錘５として直径７ミリの鈴をぶら下げた、ペン軸２の長さを２０センチメートルに設定した。

【実施例２】

【０００８】

実施例１で用いた短冊状薄板ハート型装飾体４外突起部６の接続部を細く括れた状態にすることでハート型装飾体４を左右だけでなく全周にゆれるようになった。

【０００９】

ハート型の内突起部７に、鈴の錘５やキャラクターグッズの錘５などを設けることができる、さらに、ハート型４の外突起部７とペン軸２の頭部３に接続する部分を柔軟性のある板バネや、細い棒状ピアノ線や螺線等を介することもできる、短冊のハート型４や錘に光り反射効率の良いホログラム印刷や残光照明をもたらす塗料を施すこともできる。

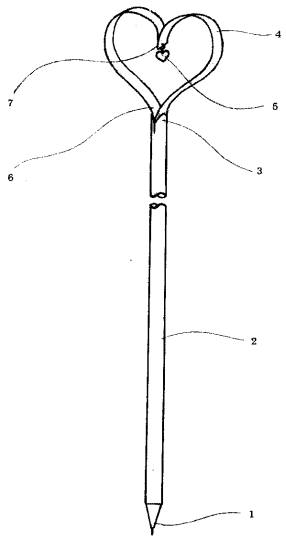
【図面の簡単な説明】

【００１０】

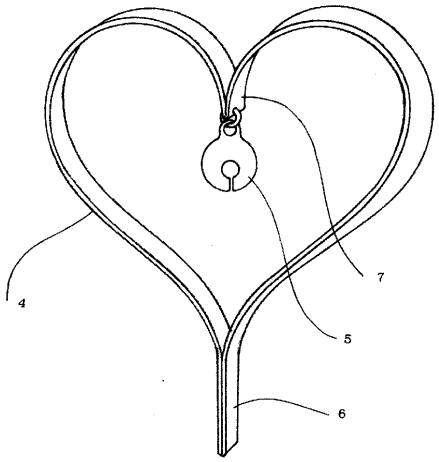
【図１】本発明の実施の一例を示す説明図

【図２】同部分拡大図
【符号の説明】
【００１１】
１　ペン先
２　ペン軸
３　頭部
４　ハート型装飾体
５　錘
６　外突起部
７　内突起部

【図１】



【図２】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０７－００５７８６（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６０－１４２９８７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６２－１８９１８５（ＪＰ，Ｕ）
実開平０２－０７１６８５（ＪＰ，Ｕ）
実公昭２７－００９９０６（ＪＰ，Ｙ１）
特開２００１－２３２０７２（ＪＰ，Ａ）
実公平４－５５３４１（ＪＰ，Ｙ２）
米国特許第６９７１８１２（ＵＳ，Ｂ１）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ４３Ｋ　１／００－３１／００
Ａ６３Ｈ　３３／００
Ｇ０９Ｆ　１／００－　１／１４